

相生デイサービス新聞

発行所
相生DS
44-4165

今が旬
秋しらす

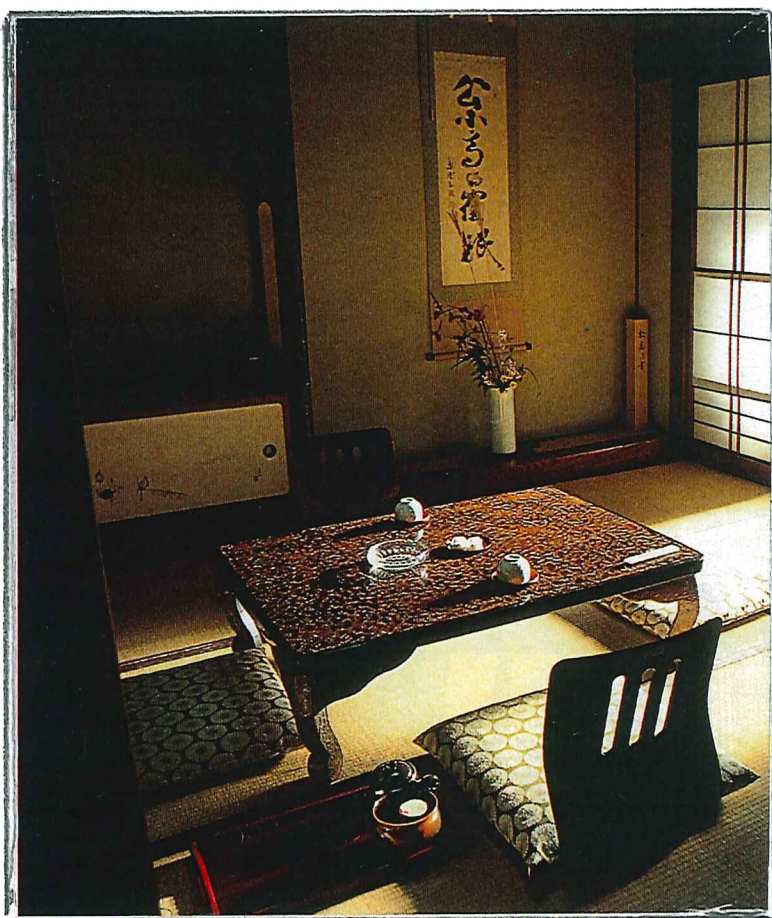


そのままでも。
野菜と組み合わせて
サラダでも。

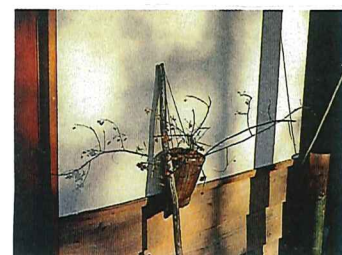
名歌
はらはらと
落つる木の葉にまじりきて
乗の実ひとり土に声あり

蓮月

虫の音に秋の深まりを
セミの声が消え、こおろぎなどの
趣のある声に変わりました。
夜に響く虫たちの音に
秋の深まりを
時の移ろいを
感じます。



← 下諏訪の宿
玄関には →
さりげなく山野草が



「……」
声をかけなくなりました。
美しき栃木の女性



川治温泉

逸品! ふいで



筆の里工房

広島県熊野町

床屋さん

5(月)
14(水)
22(木)
30(金)

笹団子	信玄餅	萩の月	鳩サレー	白い恋人	赤福
山梨	鎌倉	新潟	伊勢	宮城	北海道

「?」
おみやげ
どこで
買ったか
上と下
お土産

「あ、これ雑巾。
わたし、
拭きっぱなし
だったのぬ」
「じゃあ……」
「何か用かな」
「にゃん、にゃん」
「何が言いたい
のだから。」
「じゃあ……」
「何か用かな」
「にゃん、にゃん」
「何が言いたい
のだから。」
「じゃあ……」

「どうぞ」
青年の善意を
受け持ちよく
受けた。
席を譲り出る
年になったのだ。
乗換駅で下り
色あせたベンチ
で列車を待つて
いた。
そこにネコがきて
「にゃん」
「何か用かな」
「にゃん、にゃん」
「何が言いたい
のだから。」
「じゃあ……」
「何か用かな」
「にゃん、にゃん」
「何が言いたい
のだから。」
「じゃあ……」

天声珍語

「どうぞ」
青年の善意を
受け持ちよく
受けた。
席を譲り出る
年になったのだ。
乗換駅で下り
色あせたベンチ
で列車を待つて
いた。
そこにネコがきて
「にゃん」
「何か用かな」
「にゃん、にゃん」
「何が言いたい
のだから。」
「じゃあ……」
「何か用かな」
「にゃん、にゃん」
「何が言いたい
のだから。」
「じゃあ……」